

唐松岳＆五竜岳山行報告

【山行日】2025年 8月 4～5日(月火)

【集合】岩舟支所P AM 4:00

【費用】マイカー1台 : 29,000円

【メンバー】CL:鈴木 SL吉田 飯野、嶋田

4日 晴れ 岩舟支所を出発し、八方池山荘から唐松岳に登り五竜山荘へ

岩舟支所P4:00＝八方ゴンドラ駅 P6:35/7:00+++

八方池山荘 7:30/7:40～八方池 8:40/9:00～扇雪渓

10:00/10:10～唐松岳 11:30/11:40～唐松頂上山荘

12:00/12:30～鞍部 13:30/13:40～五竜山荘 15:00

唐松岳と五竜岳に登りたいと言うリクエストがあり、

八方尾根から登るコースを計画した。当初の計画は2日・3日の土日で登る予定だったが、五竜山荘の予約が取れず4日・5日の月火に変更して計画した。岩舟支所を4:00に出発し、6:35に八方ゴンドラ駅



に到着する。駐車場は10数台しか止まっておらず、余裕で止めることができた。出発の準備を整えたらチケット売り場に行くが、平日なので並ぶことなく購入できた。平日なのでゴンドラの始発も30分遅いが、スムーズにゴンドラに乗車できた。アルペンクワッドリフトとグラードクワッドリフトを乗り継ぎ、八方山荘まで30分で到着する。トイレを済ませストレッチを行なったら出発する。八方山荘の脇から登山道になり、尾根コースと湿原コースに分かれている。どちらのコースを進んでも時間に大差は無いが、我々はお花畠が見られる湿原コースを登って行く。ハクサンフウロやミヤマキンポウゲ等の花を見ながら気持ち良く登って行き、

途中のベンチで休憩し衣服調整を行う。ここからも湿原のお花畠に癒されながら登り、尾根コースと合流する地点にトイレがある。ここからハイマツ帯の尾根道を登り、第二ケルンを過ぎ八方ケルンの先から八方池への道を下って行く。八方池からの白馬三山は素晴らしい、絶景を眺めながらベンチで休憩する。眺望を楽しんだら尾根に上がり、第三ケルンからは不帰ノ嶮が望めあまりの迫力に圧倒される。

景色を楽しんだら八方池を後にし、ハイマツの明るい尾根を登って行く。やがてダケカンバの巨木の中を登るようになり、下ノ樺と言われる場所である。さらに尾根道を登り、再びダケカンバが多くなると上ノ樺と言われる場所である。さらに登ると雪田が残る扇雪渓に出て、休憩して疲れた足を休める。ここから3人は唐松岳を目指すので先行し、我輩は3人と分かれてのんびりと唐松岳頂上山荘まで登って行く。扇雪渓から右に急坂を登ると、小さなケルンが建つ丸山に出る。ここからの景色は素晴らしい、不帰ノ嶮から白馬三山が間近に迫り大迫力である。丸山の先からはハイマツの広い尾根を登り、一旦尾根の南側を巻くように登って行く。さらに右に登ってヤセ尾根を登るようになり、クサリや手すりを頼りに登ると唐松岳頂上山荘が建つ稜線に着く。山荘の前では大勢の登山者が休憩しており、先行した3名はまだ戻っていないようだ。ベンチに座って景色を眺め、昼食を食べていると3人が唐松岳から戻って来た。皆さんも昼食を食べて、トイレを済ませたら五竜山荘へ向かう。



賑わう山荘を後にし、後立山連峰の主稜線を南下する。出発するとすぐに牛首の露岩帯が現れる。



牛首の難所は両側に鋭く切れ落ちた岩稜で、本日のコース一番の危険な場所である。要所にクサリが設置されているので、慎重に下れば問題なく通過できる。皆さんも岩場に慣れて来て、グングン下って行く。大黒岳の登りになると我輩の息が上がり、3人に先行して行ってもらう。大黒岳からの下りは黒部側の岩礫の斜面を下り最低鞍部に着く。ここから灌木帯の登りになり、赤茶けた急な斜面を登るようになる。ハイマツ帯の長い登りをゆっくり登り、一歩一歩高度を稼いで行く。ようやく白岳直下で遠見尾根への分岐に出て、目の前に堂々とした山容の五竜岳が現れた。遠見尾根から登って来た女性

グループから「凄い景色ですね！さっきまで見えなかつたんですよ」と声を掛けられ、「そうなんですか、超ラッキーですね」喜びを分かち合った。女性達は「まだこの景色を見ていいです」と言うので、我輩は五竜山荘に向かって降りて行く。五竜岳を見ながら

下り、山荘に着くと先行した3人が待っていた。部屋に案内され、着替えて荷物を整理したら外のベンチで反省会が始まる。冷たいビールを飲みながらの五竜岳は格別で、「ここまで登って来た人しか味わえない最高のビールだね！」とテンションが上がる。ビールを飲み終えると吉田さんが八海山の瓶を出して、「スーさんの為に持てて来た」と言う。「エ～こんな重い物を担いで来たの？」とビックリしたが、有り難く感謝していただいた。5時から夕食をいただき、明日の天気を心配しながら早めに床に就いた。



5日 雨&強風 雨と強風の為五竜岳は登らず、遠見尾根を下って白馬五竜テレキャビンに乗ってとおみ駅に降り、八方ゴンドラ駅で車を回収し岩舟支所へ帰る。

五竜山荘 6:20～西遠見山 8:20/8:30～小遠見山 10:00/10:10～アルプス平駅 10:40/10:50++
山麓駅 11:00/11:25＝八方ゴンドラ駅P14:40/11:45＝八方の湯 11:50/12:30＝ガスト 12:40/13:20＝
岩舟支所 P16:45

朝3時に起床し4時出発で五竜岳に登る予定だったが、外を見ると風雨が強く天気が良くないので五竜



岳に登るのは諦め布団に入る。5時から朝食をいただき、雨の様子を見ながら6:20に五竜山荘を出発する。白岳への登りは風が少し強かったが、遠見尾根を下り始めると風は弱くなる。しかし鉄ハシゴやクサリ場が連続する露岩帯の下りは、雨で滑りやすいので落ち着いて慎重に下る。ヤセ尾根を下って行き、崩落した地点を過ぎるとダケカンバの樹林帯を下り、西遠見山に着き小休止する。ここまで下ると危険個所は少くなり、緑豊かな樹林帯の道を下るようになる。下るにつれて雨も小降りになり、周りの景色を見ながら楽しく下れる。皆さんからも会話が聞こえるようになり、しばらく下ると大遠見山

に着く。休憩して記念写真を撮り、水分を補給したら出発する。下るにつれ空が明るくなり、雨もほとんど感じなくなってきた。中遠見山で小休止し、小遠見山まで下ると雨は上がり展望が得られるようになる。五竜岳の上部は望めないが、大遠見山や周辺の山々は望め山麓の景色も見ることが出来た。

ここからもヤセた尾根を下り、一ノ背髪、見返り坂を過ぎると地蔵ノ頭に着く。ここは立派なケルンが置かれた平坦地で、展望が良く下って来た遠見尾根や山麓の集落が見渡せる。

雨が止んで薄日が差してきたが、レインウェアは脱がず着ながら乾かすことにする。ここからわずかに下るとアルプス平のスキーチャンス場に出て、手入れされたお花畠の中を下って行く。ここは白馬五竜高山植物園と言う園地になっており、シモツケソウやギボウシ、ニッコウキスゲなどの花が咲き乱れている。お花畠は素晴らしく、皆さん綺麗なお花をスマホに収めていた。「雨で五竜岳には登ることが出来ず残念だったが、このお花畠を見られたので来て良かった」と言ってくれた。アルプス平駅でトイレを済ませ、白馬五竜テレキャビンに乗ってとおみ駅に下



った。とおみ駅に早く着いたので予約したタクシー会社にTELしたが、車が無いので30分くらい掛かると言われた。とおみ駅の中でレインウェアを脱ぎ、土産売り場を見ているとタクシーが来た。タクシーに乗って八方ゴンドラ駅まで行き、我輩の車に乗り換えて八方の湯に向かう。八方の湯で2日間の汗を流し、温泉に浸かって疲れた足を癒す。温泉から上がつたらいつものガストに向かい、少し遅い昼食をいただいた。昼食が済んだら帰路に着き、途中の道の駅「中条」に寄ってお買い物。トマトや桃をゲットし、更埴インターチェンジから上信越道に入る。途中、佐久PAから渋滞が有ったがそれほど長くなく、予定より早く岩舟支所に帰着した。

